

2 高等部の研究のすすめ方

(1) 研究への取り組みについて

高等部は昨年度、年度当初に立てた作業学習の年間指導計画を基に「単元計画表」「Pシート」「流れ図」の各ツールを活用し、学習評価を基にした作業学習の授業づくりを行った。本校の作業学習で中心と考える職業科に、何の教科等を合わせて単元を構成し、指導を行ったかを作業班ごとに整理することができた。また、「Pシート」では、個々の卒業後の生活を見据えて今後目指す姿を考え、「流れ図」では、個々のめざす姿を集約し、年間計画を踏まえながらより各作業班の実態に合った次単元の内容を計画することができた。ただし、実態差がある集団においては、目指す進路先に応じて類型化を検討するなど、より効果的に学習できる方法について検討が必要であることが課題として挙げられた。

今年度は、上記の課題を踏まえながら、生徒が主体的に活動できる授業づくりを行う。また、より効果的かつ継続的に各ツールを活用することができるように、各書式の関連性を明確にしながらい、記載項目や内容の精選をするなど簡略化についても検討を行っていく。

各ツールの活用に関しては、ツールを活用する前に事前説明を丁寧に行い、各ツールにおいて記入する内容に曖昧さがないようにしていく。説明に際しては、グループの規模を変えたり、視覚的に分かりやすく資料やプレゼンテーションを用意したりし、職員への周知に努める。実際に活用していく中で、疑問点や改善点が明らかとなるように、適宜アンケートや中間報告会等の機会を設け、より効果的かつ継続的に各ツールを活用するための情報を蓄積し、共通理解を図るようにする。

また、作業学習において実態差のある集団での類型化については、類型化せず全員「同様の目標を設定する」作業班と「目指す進路先に応じて類型化し、目標設定をする」作業班の二つに分け、「単元計画表」や「Pシート」を作成し、互いの作業班で意見交換する機会を設けるようにする。

(2) 今年度のすすめ方

<今年度の研究の方針>

- 年間を通して、時期や回数を設定し、「単元計画表」「Pシート」「流れ図」の作成を行う。各ツールを用いた一連の流れについて学部研究日に意見交換の時間を設け、活用の際の効果の検証や書式の見直しについて意見をまとめる。
- 1学期は、年間計画を基に、「単元計画表」「Pシート」「流れ図」の作成方法を確認し、使用する単元の時期を決めて、作業班ごとに活用する。
- 2学期は、各ツールの活用を進めながら、全校授業研究会に向けて指導案作成や検討等を行う。
- 3学期は、各ツールを活用した効果の検証と書式の見直しを行う。

<授業研究会について>

- 作業学習の授業で全校授業研究会を行う。
- 授業研究会の日程

日時	内容	担当	講師
12月13日(月)	全校授業研究会	石けん班	聖徳大学 教授 堀子 榮 先生